

川崎市上下水道事業中期計画平成30年度実施結果に対する

川崎市上下水道事業経営審議委員会の意見について

1 中期計画の進捗管理について

中期計画は進捗管理を行う中で、設定した取組や計画目標に対して、毎年度、取組成果、進捗状況、目標の達成度など現状の把握から、問題・課題を明確にし、施策の目標達成に向け、施策、目標の見直し、執行プロセスの改善、改良につなげています。

計画の進捗状況については、学識経験者、団体推薦者及び公募市民によって構成される「川崎市上下水道事業経営審議委員会」へ報告し、意見を伺い、その結果を事業運営に生かしていくこととしています。

2 川崎市上下水道事業経営審議委員会からの意見について

令和元年11月11日(月)に第2回川崎市上下水道事業経営審議委員会を開催し、議題として平成30年度の実施結果を報告しました。なお、委員会での主な意見等については、次のとおりです。

【資料2-2「川崎市上下水道事業中期計画平成30年度実施結果」について】

- 総合的に勘案して、最終的に達成度が3と判断すること自体はよいが、できたものや課題があるものを明記して、今後の進捗が明確になるよう示してもらいたい。
- 数値目標のない取組について、例えば「人材育成・意識改革の推進」では、意識改革を行いどのような効果を得たのかなど、その取組を行うことによって得られた効果も示してもらいたい。
- 国際展開などの取組について、現状維持に見えてしまうので、具体的な評価と今後の目標を設定してはどうか。
- 「開設不要型応急給水拠点の整備」について、各学校に井戸を持つ町会があり、この設備が入ると井戸を廃止しなければならない、廃止に伴う工事費は町会での負担となるため、年度の計画を示してもらいたい。
- 取組の発信だけでなく、市民の方へ一緒に取り組めるような情報を発信すれば、より身近な行政となるのではないか。
- 市民の方に情報を発信する際は、上下水道がしっかりやっているということを、もう少しわかりやすくアピールするよう工夫してもらいたい。

【資料2-3「財政収支見通し」について】

- この資料だけで、下水道事業と水道・工業用水道事業の会計の仕組みが違うことを読み取ることは難しい。
- 今後の方針が3事業とも同じ文言で記載されているが、水道事業は企業債残高が右肩上がりで、他の事業は下がっており、市民の方がどう読むのか考えてもらいたい。
- 財政収支の見通しは過去と現在、3事業で状況が違うので、誤解のないような公表の仕方にしてもらいたい。

※上記の意見に対する補足説明

令和3年度までの企業債残高の図だけを見ると、トレンド(増減の傾向)は違っていますが、今後、3事業とも施設の更新需要が増加する見込みであり、その時期や規模に違いがあるものの、財政収支全体の今後の見通しとして、各事業の資料に同じ文言で記載したものです。

【資料2-4「上下水道ビジョン及び中期計画と持続可能な開発目標(SDGs)との関連」について】

- 区役所でSDGsの映像が流れていて、こちらが求めていなくても自然と情報が入ってくるので、そういう連携も活用してお知らせすることで、上下水道の魅力の発信につながると感じた。
- 市民の方々が当事者意識を持って上下水道事業に関心を持っていただけるよう、SDGsを対話ツールとして利用してもらいたい。
- 縦割りと言われる行政に横串をさしていくためのツールとしてSDGsを活用し、連携を考えていくと共有できる課題が出てきて、関係ないと思っていた事業の関連性が可視化できるので、部門間の連携を深めていただきたい。

以上の意見を踏まえ、次年度以降の中期計画実施結果報告や事業運営に生かしていきます。